

幕末明治の写真師列伝 第一百十回 宮下欽 その三十二

「三月十九日

一、第九時前先生兵学寮へ写真ニ御出被遊候、午後第二時前御帰り、種板六枚御出来ニ相成、○同第一時半頃宮下外務省へ金子受取行、過日差出置候代金拾八円七拾五錢受取、同第五時」帰ル、○同第四時過三戸氏来ル、夕飯出ス、同第五時半過帰ル、同氏明廿日国元へ出立可致旨、[孝太郎来り例之所存] ○蓮上（註：下岡蓮杖のこと）殿之家内来ル、金米糖（註：金平糖）一箱品到来ス、金・銀・アルコール、求呉候様頼有之、○西田氏方郵便書状ニ而書状来ル、オーストリア博覧会行物品之写真、洋人ニ買入有之候間、見本急遽拵呉候様との事なり、右渡辺知三郎殿持参ス、

「三月廿二日

一、朝第七時過、宮下兵学寮之写真持参ニ而武田氏（註：武田斐三郎（成章）のこと）へ行、同第八時頃帰ル、○同第十一字前宮下兵学寮へ行、先日中方先生御出ニ而写取候写真、紙取ニ致し百二拾五枚持参ス、尤種板二拾五枚ニ而一包五枚ツ、なり、右差出候所、御拵下ケ受取書系紙ニ認差出候様有之、夫方硝子店石川やへ行、大形[并]硝子四枚持参ス、此価三円なり一枚之代三分ツ、午後第二時半頃帰ル、○朝第七時半頃山田氏来ル、菓子・茶出ス、過日註文ニ相成居候富岡景色四ツ立判三枚、金子受取品物渡ス、無程帰ル、○午後第三時前疋田氏来ル、同時過帰ル、○同第六時前三野浦氏来ル、菓子・茶出ス・夕飯出ス、同第八時半頃帰ル、○善太郎来り、例之所存、○松藏同第九時頃無断ニ付[外]出シ終夜不帰、○玉熊方頼ニ付写真一ツ貸出ス、

「三月廿四日 晴天

一、朝第八時半頃宮下、中田江四ツ立判之人物目鏡取ニ行候所、外へ遣候旨申候ニ付九時半頃帰ル、○同第十時頃宮下兵学寮へ行、先生同[十一]時半頃同寮へ御出、午後第四時過宮下帰ル、先生同時過御帰ル、今日種板景色三枚・人物一枚出来ス、○朝第十一時浅沼や（註：「や」は「屋」のこと）より硫酸曹達廿五升入一瓶持参ス、代金六兩二分二朱ト二匁五分、○右同時頃蛸子氏御出、竹藏召連れ御外出ニ而午後第一時頃御帰り、菓子・茶・昼飯出ス、同第四時頃御帰り、○同第二時頃中田手代来ル、無程帰ル、○同第三時頃浅沼や写真鏡并箱共ニツ当人持参ス、先生御留主ニ付即時帰ル、○同三時半清次郎より六ツ立判之種板箱一ツ・八ツ立判之種板[箱]四ツ出来シ、春吉持参ス、同人同第四時半頃帰ル、同人へ夕飯出ス、○一昨日玉熊へ貸候写真箱帰（註：返）ル、右為礼蒸菓子一折到来ス、○同第五時頃浅沼や（註：屋）来ル、過刻持参致し置候四ツ立判人物取玉箱共一ツ、景色取玉箱共一ツ、日数十日ニ而借賃五兩之約定、尤け（註：検）見ニ而宜敷玉ニ候へ者相求候旨なり、右人物取之方ハ代金五拾（百八拾）五兩、景色取之方ハ代金五拾五兩之旨也、同人へ菓子・茶出ス、同第六時頃帰ル、○同第四時半頃あわます（註：屋号）女房并亀来ル、同第五時半頃帰ル、○同第六時頃風間氏来ル、菓子一折到来ス、同第八時半頃、先生同道ニ而御外出、○朝第八時山田氏来ル、富岡景色四ツ立判拾七通入用之旨、尤直（註：値）段相働呉候様頼ニ付、一枚ニ付代金二分ツ、にて可遣旨申候所、いつれ（註：いづれ）望人と相談いたし候而駢相極度、尤価之義委細ニ認取、夕刻同氏宅へ相届呉候様申被聞候ニ付左之通相認（註：「相認」の読みは「したため」）、宮下午後第六時過持参ス、

[大蔵省租税寮山田宛納品書書写]

舌代

一、上州富岡製糸所四ツ立判写真一通、但拾九枚ニ而代金拾四兩一分、但一枚ニ付代金三分ツ、右者先般大内蔵省（註：大蔵省の間違い）へ差出候価、尤旅費并諸

雑費共附込、廿部平均ニ而如此、

一、右同段ニ而、

□代金一兩三分二朱

但一枚ニ付代金二分二朱

右者通常孰も様へ可差上価、尤[紙]写真

諸入費[御]見込ニ而如此、

一、右同段ニ而、

代金九兩貳分

右者今般貴所様へ可差上価、尤御談シ

向ニ付、格別相働諸[雑用]入費相除キ、写真向入用

而已ニ御望候間、宜敷御合置被下度、此段

書面を以念記申上候、以上、

三月廿四日

横山松三郎

山田様

然ル所一枚ニ付二分ツ、にて宜敷候間。拾七通至急拵呉候様与御註文有之、宮下同第八時過帰ル、○善太郎手伝一人召連レ終日来リ、例[之]所存、○橋本方頼、おてふ様送りニ遣候人、午後第七時頃帰リ来リ、去ル廿日午後第八時頃日光へ御機嫌能御着ニ相成候旨、

「三月廿九日 晴

一、朝第九時過、先生兵学寮へ写真ニ御出被遊候、○同第九時過宮下事務局へ行候所、同局十等出仕南部陳殿、以前段々申添有之様之事ニ而、決而権威を以申候事ニハ無之間、篤と勘弁致し、明後三十一日迄ニ挨拶致し候様有之、夫方石川へ行、先日調候通之大判硝子四枚、明日迄ニ持参致し候旨約束致し、午後第三時頃帰ル、○同第四時過山形や（註：「や」は「屋」のこと）来ル、兼而御約束之双眼早写之鏡蓋一ツ、鏡箱一ツ持参ス、同第五時頃帰ル、○同第二時頃善四郎方竹藏を呼ニ来り候ニ付、右同人家元へ遣ス、其後同人腹痛之旨申来リ、軽快次第可参候間、可然御執成先生へ相願度旨申越、○同第七時前日光斎藤氏来リ、先生ニ御目ニ懸り度旨申、御帰りを相待居ル、夕飯遣ス、○同人第八時頃先生御帰り、○岩吉吉[大形]塗盆三枚仕上持参ス、○朝第十二時前西田氏より郵便来ル、おきつ様ニ御出願度旨之事なり、○斎藤氏夜泊ス、

「三月三十日 晴

一、[朝]第九時半頃宮下兵学寮へ行、暗室之掃除致シ午後第一時頃帰ル、○朝第十二時半過浅沼や来ル、アルコール一本持参ス、価一分一朱、午後第三時半頃帰ル、過日持参致し置候人物之手札取鏡、箱共持参致し帰ル、○午後第二時過松五郎殿来ル、夕飯出ス、○同第一時過（前）疋田氏来ル、同三時半頃帰ル、○同第二時前蛸子氏来ル、菓子出ス、同第四時頃御帰り、○斎藤氏へ朝飯出ス、朝第八時過帰ル、○中田より手代来ル、ゴム二十一□（と）オンスト（と）一匁遣ス、○竹藏今日も不帰、

(※「方」は平仮名の「よ」と「り」の合字)

(森重和雄)